

対象施設・部門	申入項目の分類	具体的な課題内容	客観的根拠・データ（出所・事実関係）	組合としての改善提案・工夫
	1 (1)	①職員が少ない状況で、なんとかやり繰りをしている。施設長は問題なく業務を回せていると思っている。 ②ギリギリの人員で回しているので利用者が満足いくサービスが提供できない。細かいケアができず、理念・行動指針にどこまで近づけてケアができているか。理念と現状のギャップがある。 →細かいケアとは？具体的にしていかないと。 まずは標準ケアがスケジュール通り完結できていればOKでは。 時間は作らないといけない。何を削って何を追加するのかなども考えてほしい。	・重大な事故が数件ある。（骨折） ・残業ありきの勤務が常態化している。 →これを良しとはしていない。ある程度定着できる人材を採用したい。また業務改善もしたい。	管理者に現場を見に来てほしい。現状を見てその上でどうすれば利用者満足を得られるサービスができるかアドバイスをもらいたい。
	1 (1)	③少ない人数で業務を回していることをもっと評価してほしい。 ④夜勤ができる職員がまた一人退職予定。次の職員が入ってこないため、残った職員で夜勤を分担することになる。あわせて日勤帯の業務負担も更に増える。 →どの業務、どの時間に何人必要なのか具体的出してほしい。	・早遅勤務が11件（8月）。そのうち2名は2回ずつ当たっている。そのため早遅がある日は他のユニットから職員が（手伝い）勤務に入っている日もある。 ・新たに外国人職員が夜勤に入り、職員のユニット移動と併せて、やりくりしている。 ・必要な人員が確保できず入浴中止3回（7月） ・食事提供時間15分以上の遅延・・・5.7回／月（5～7月） ・休憩未取得・・・10時間／月（5～7月） →慢性的なものか、欠勤など突発的なものなのか要因を確認し対応する。	人件費予算の余剰金の再配分
	1 (1)	⑤喀痰吸引の資格保持者が少ないため、不在時は他事業所から来てもらわないといけない。 →同敷地内の2施設の夜勤者4名中1名は資格保持者を確保している。遠慮せず呼んだらよい。 確認作業を行う。 ⑥役職者、看護師、リハビリ、相談員の兼務が多い。本来いるべき所にいないのは人手不足に関連している。	・複数の部署の責任者を兼務し、ほとんど現場に入ることができない。 ・一部の職員は休日出勤や定時前から来て遅くまで残っている。 →まずは当該職員を交え話を聞いていく。	兼務のシステムは当人の負担も大きくなるため、基本なくしてほしい。該当者に過度な負担がないか聞き取りしてほしい。 兼務の業務を分析し適切に配置。
	1 (1)	⑦時間外労働の申請を躊躇し、結果サービス残業をしている職員がいる。 →まずは当該職員を交え話を聞いていく。		申請により1分単位で支払う（2024団交にて確認）を周知。 サービス残業についてどう考えているのか知りたい。またサービス残業している者がいるか調査をしてほしい。
	1 (2)	①外国人職員へ指導するにあたり、言葉の壁があるため身振り手振りを交えて伝えているが正確に伝わっているか不安。正社員の負担が大きい。 ②突発的な業務は外国人職員へ指示しても伝わらないため、日本人職員へ頼むことになる。	・朝礼に外国人職員が参加する事が増えてきた。ただ重要な話があるときは、日本人が出るように事務所からアナウンスがある。 ・介護職員 日本人9名 外国人14名 日中に日本人が少ないため教育にかかる時間が取れていない。 ・気づきであるヒヤリハットが出ず、ほとんど事故報告となる。4月～7月：ヒヤリ1件 事故報告13件 ・家族からの対応は日本人が求められる。 ・日勤帯、日本人1名、外国人2名となり日本人に負担や責任が大きくなる。任せられない業務もあり、休憩を細切れで取る。取れないこともある。 →外国人職員を一括りにしてはいけない。在留資格や雇用形態、個々の能力など様々な要因がある。法人として課題を課して日本語などを学習してもらっている。 外国人職員比率が高い事業所へ日本人職員の異動などを提案してもらいたい。	外国人職員向けの日本語・介護専門用語研修の強化を行なってほしい。日本語のレベルに応じて業務時間内に定期的な日本語研修（介護用語中心）を定期的に実施。外部講師を活用。 外国人の方々も個々のレベルは高い中で一番ネックになっているのは言葉の壁。もう少し法人に考えてほしい。 翻訳アプリ導入。
	1 (2)	③外国人職員個々のレベルは高いが、現場は回っていない。3～5年で帰国することが決まっているため、意欲はそれほど高くない。ベテラン外国人が新人外国人を指導することもうまく軌道に乗っていない。 ④外国人職員へ十分な指導ができず、モチベーションが下がっている。		外国人職員を役職登用する。ある程度スキルのある外国人職員に指導の権限を一部委譲するなど。またそれに対して手当てなど対価を与える。 →この考えはある。